

NPO 法人

芦安ファンクラブ通信

第38号 夏

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ

事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造 URL=<http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/>

電話 055-288-2531 fax 055-288-2533

E-mail=rantan@blue.ocn.ne.jp

野呂川広河原

インフォメーションセンター

六月二十六日

南アルプスの、登山拠点、広河原にインフォメーションセンターがオープンし、開山祭の前に式典が行われた。

環境省直轄事業で、南アルプス市が、維持管理運営する、もので、鉄骨造二階建て延床面積、五百八十五平方メートル。登山情報、自然情報の提供案内、休憩スペース、トイレ、ロッカー、給水コーナー、また飾り付けも、風景、や高嶺の花の写真など見事な物です。

北岳草観察会のめんめんは早速雨宿りをしました。
今後この地を訪れる登山者の情報源、憩いの場所として大いに利用される事でしょう。



画 清水 淳一

インフォメーションセンター、オープニングの式典が一階で行われたのに続き二階で開山祭が行われ、あいにくの雨の中、屋内で出来た事は助かりました、夜叉神太鼓も、芦安中学校生徒の歌声も激しい雨音を消す響きでした。

蔓払いの儀式は雨の中、斧が振り下ろされ、道が開かれたのでした。今年は大天狗、子天狗とも芦安ファンクラブのメンバーで行われました。

開山祭

北岳草観察会

六月二十六日、



午前中、南アルプス広河原で開山祭が行われ、「蔓払い」の儀式に、NPO法人芦安ファンクラブのメンバーが山の案内人に扮して、蔓を斧で切り開き登山者の安全祈願が行われた。開山祭前には、環境省が整備を進めていた、「野呂川広河原インフォメーションセンター」の開館式も行われた、会場入り口で、北岳草観察会参加者受付が行われました。

午後「芦安ファンクラブ」北岳草観察会の参加者四十人。広河原山荘でオリエンテーションが行われ、午後十二時十五分、雨の中出発。急な登りを二時間あまり登り、途中、山道に咲くイチヨウラン、マイズルソウ、ギンリヨウソウ、フタバラン、など草花を観察しながら三時二十五分白根御池小屋到着。(所要時間三時間十分)

四時から、ファンクラブ、石川さん司会進行で宴会が始まり、参加者の自己紹介があり、アルコールも入り、和気合あいのうちに



行われ、六時夕食、酒豪達はその後も消灯まで続いていたようです。昨日に続き雨の中、五時十五分、白根御池から草滑りコースを登り、お花畠前の雪に覆われた、急斜面でアイゼンを着けて登り、稜線に出る。今度は、雨と猛烈な風にさらされながら、登山道に咲く高山植物に魅了されながら、肩の小屋八時到着。あいにくの天候により、標高三千メートルからの展望は望めず。休憩後、北岳山頂へ向かう、山頂は全く風がなくここで一息入れ、八本歯分岐まで行くと、ハクサンイチゲが咲き盛る中に、可憐な姿で咲くキタダケソウに逢う事が出来ました。まだ蕾の状態が多く、春先の低温や六月に入つてかららの降雪などで残雪も多く、もう少しすると見ごろを迎えるのでは、未練を残しながら、北岳山頂に戻り、同じ経路で下山する。小太郎尾根を下った、お花畠あたりから少しづつ暑さが増す中、白根御池小屋まで下り、昼食。広河原山荘三時四十五分最終組到着。二日間雨の中、北岳草観察会、無事終了しました。



キンポウゲ科
高さ 一五から二〇センチメートル
花期 六月中から七月上
北岳特産で登山シーズンには消えます。
ハクサンイチゲと似てるので間違え
ないように。

百花繚乱・北岳登山に参加して

参加者 小林圭一

実に楽しい、有意義な登山でした。石川リーダーはじめスタッフの皆さんのが細やかな気配りに感謝申し上げます。

十四日四時、雲が切れて、星と朝焼け、今日は天気に期待できるぞと。五時受付、皆さんと合流、小雨、広河原に着く頃はすっかり本降り、この時はまだ雨は一過性と思っていた。そして、この雨が山の様々な姿を演出し、多くの経験をさせてくれるとは考えていなかった。

開講式でリーダー、スタッフの皆さんのご紹介の後、リーダーより「安全で楽しい登山にしましょう、



『森深く 轟音響かす 大樺沢』（まだ流れは見えない）登るに連れて沢が見え隠れ。十重に二十重に重なり流れ下っている、まるで滝の様な激流だ。水が綺麗だ、上は花崗岩や石灰岩だろうか？水量は普段の三、四倍だそうだ、渡渉板のすぐ下は激流。リーダーが確認しながら渡り、OKを出す。

雨はやむ気配がないが楽しい、一步毎に次々と高山植物が可憐な花を見せ、「どうだい、水滴を持つ

今日は大樺沢コースを登ります」との話に皆気持を引き締めた。歩行開始、一步一步ゆっくりと。



た私も素晴らしいでしょう」とばかりに雨に濡れた姿で迎えてくれる。飽きない。

花の名前の伝言が始まる、すばらしいチームワークだ。遠くは見えない、雨に煙るお花畠、雪渓の

端で芽を出してサー伸びるぞと雨を歓迎している草木に感激。まもなく肩の小屋に到着、ずぶ濡れだあ。





すぞ。今回の一縁に登った仲間に女性が9名、彼女らの強さ、大らかさに感服。雨の副産物で、ステテコやパンツ姿のおじさまが出現、彼ら私の仲間です、じめんなさい。橋、階段などの登山道の整備、下調べ、と安全登山に見えないところで協力してくださった方々に思いを馳せ、多くの方のお世話になりながらここまで登れたことに感謝しながら就寝。

一五日未明、風強く、風向激しく変わり、雨を激しく屋根に叩きつける音を聞きながら、今日の行程を考える。『夜来風雨の声 花落つる事・・・』なんてもんじゃないなど心配する。五時三十分、

『ぐるりんと 連山畠々 雲・霧超えて 思うも楽し 北岳山頂』そして、「今から北岳草を見に下りまーす。」のリーダーの声に勇み立ち結構な急斜面を下り、念願のキタダケソウと対面しました。水滴をいっぱい抱えた清楚な北岳草は、「私達はさ風や雨や雪は構わないさ、でも世人様の作り出した環境変化には弱いのさ、だつて私達は氷河時代から生きて來たもんでさ」と言つていよいよでした。山頂に登り返し、肩の小屋の皆さ

北岳山頂に向けて出発、まもなく下から吹き上げる雨交じりの烈風の洗礼を受ける。奴ダコ状態、尾根でなくて良かったと思いながら、ここで凧を揚げたらどうなるか?と馬鹿なことを考える。全く不安を感じず、リーダー、スタッフの皆さん沈着な指導に敬意。『烈風雨 受けても リコイル草花強し』と心配は杞憂であった。(リコイル;バネのように何度も風で揺られてもまた元に戻るイメージ) このような環境下でも参加者の気持は「一步踏み出す その先に 草花ないか 気を配り」の心境にて頂上に立ちました。

『夜来風雨の声 花落つる事・・・』なんてもんじゃないなど心配する。五時三十分、



末筆ながら同行していただいた皆さんのお名前の紹介をさせていただきます。

石川 剛 様(リーダー)、杉山啓子様、大滝要造様、花輪初代様、渡辺典美様

ありがとうございました。(ロープの結び方の講義も楽しみました)

記 小林 圭一
画 大瀧 要造

んにお礼を申し上げ下山開始、白根御池が見えたところで、雲が切れ霧が流れて鳳凰三山が現れた。しばらくぶりに見る山の姿、湧く雲、流れる霧、垣間見る青空に感動、空気が澄んでいた。白根御池小屋で昼食をいただき、北岳バットレスの雄大な写真と紅葉の写真に見入った。無理のないペース配分で、参加者全員何事もなく無事

山行の過程で自然と人間の関わりについて隣の方と語り・考え、自然は放つておくことが一番良いと思いつながら、追加の手を加えなければならぬ状況、その狭間でご苦労されている方々にもお会いし、そのご努力に頭が下がりました。締めくくりにあたり、今回の厳しい天候の中、参加者の不安もなく、段取りも完全で、全工程が無事に修了出来ましたことを芦安ファンクラブの皆さんに重ねてお礼を申し上げます。

に下山し、閉講式となつた。今回の山行を一言表現すると「思いやりの心」となつた。周りを、自然を、一步一步こも。

利尻・礼文 花紀行

2010年7月8日・9日・10日・11日

- 1日目 竜王～羽田～稚内～礼文島・香深港
- 2日目 知床～元地灯台～桃岩展望台～レブンウスユキソウ群生地～利尻島・鴛泊港
- 3日目 利尻山
- 4日目 利尻島・鴛泊港～稚内～羽田～竜王

「利尻・礼文にいきたあーい」思いつきとも呟きともとれる「連れてってコール」にいともすんなり「いいですよ」と返事を返してくれたのは、利尻・礼文ガイド10回のベテランのIさん。

こうして、昨年12月の芦安ファンクラブの研修旅行の車中で「ベストシーズンに訪ねる利尻・礼文花紀行」は歩き出したのである。しかも、スケジュール作成や航空機、旅館の手配などすべてIさん任せでこの山行は始まったのである。

一行は、リーダー兼ツアーアシスタント兼乗員兼雑用係のIさんを含む芦安ファンクラブのメンバー6名と南嶺会のS氏の計7名。今回の花紀行は、核心部の標高差:1,500mを登る利尻山登山(1,721m)があるものの、気心も知れているし、普段から縦走や山行をともにし、それぞれの体力や技量も各自が認め合っているメンバーなので、ただただ楽しい

未明に竜王を出発した一行は、礼文島・香深港や、地元海産物をメニューに出す食堂を探すなど、早速旺盛な食欲と好奇心を發揮して、夕方6時前には礼文島に到着した。

いまさら言うまでもないが、最北の海に咲く島利尻島と礼文島についてちょっとおさらいをする。ともに二つの島は、利尻礼文サロベツ国立公園に属し、礼文島の地名語源は、アイヌ語のレブン・シリ「沖の島」、利尻島はリー・シリ「高い島」に由来する。

礼文島は、0メートル地帯から高山植物が咲き乱れていることから別名「花の浮島」と呼ばれている。人口は7月末現在、3,040人。一島一郡一町である。



利尻島はその名のごとく、利尻山を中心とした火山島である。島の東半の利尻富士町と西半の利尻町に属し、人口は8月末現在利尻富士町2,955人、利尻町2,482人である。

花紀行2日目は、礼文島のトレッキングから始まる。島内にはトレッキング5コースがあるが、このうち私たちが歩いたのは、桃岩展望台コースと、それに続く礼文林道コースのレブンウスユキソウ群生地までの間である。夕方には利尻島へ渡るため、ゆっくり堪能していることができないのが心残りだ。

朝8時前、宿にお願いして桃岩歩道入口の知床まで送っていただく。歩道入口では早朝のうに漁を終えた猟師のご夫婦が、殻からうにを出



していた。一行が手際のよさに感心して覗いていると、取り出したうにの味をみろと手のひらに乗せてくれた。うにの甘さと程よい塩味が口の中に広がっていく。「今夜も、うに丼だ」と一行。こちらに着てからは特別に注文しなくとも必ず食卓に取れたてのうにが乗ってくる。

このコースは、高山植物の宝庫で、草地や岩場、湿地など景勝ポイントも多様で、礼文に咲くほとんどの花を見ることができるという。歩き始めるやいなら咲き誇る花が私たちを出迎えてくれる。



「これはミヤマハナシノブ?」「カラフトハナシノブというらしいよ。」「このシオガマは?」「それはレブンシオガマ」「これはシナノキンバイ?」「違う、違う。レブンキンバイソウ」レブン何とかという種がやたらと多い。S館長は植物図鑑を片手にあちらこちらから飛び交うリクエストに応じている。わからない種は、宿へ帰って調べるという。館長は学者だなあと改めて思う。



歩を進めるうちに私たちはイブキトラノウの大群落に飲み込まれた。花の向こうに目を

やればエメラルドグリーンに輝く海岸線が光っている。ゆったりと続く遊歩道のはるか先まで花畠が続き、猫岩、桃岩など奇岩と断崖が目を楽しませてくれる。

桃岩展望台から、レブンウスユキソウ群生地を目指して礼文林道コースへ入る。先の香深井までのコースに思いを残し、レブンウスユキソウ群生地をあとに、来た林道を引き返し、香深の宿へ戻った。明日の利尻山登山に向けて、利尻島へ渡る。



3日目、早朝3時30分。宿にお願いして、利尻北麓野営場へ送っていただく。下山後の向かえと利尻温泉への送迎もお願いして風呂セットを容易する。リーダーから、携帯トイレも渡される。

3時45分利尻北麓野営場出発。

起床後、男性陣の部屋の窓から、利尻山が山頂までみえていたと呼ばれたが、利尻北麓野営場に向かううち山頂は雲の中に隠れた。曇天ながら登山日和である。利尻山には登山コースが2コースあり、このうち私たちは、鴛泊コース（登り6時間・下り4時間 全長8.4km）を行く。日本百名山の秀峰利尻富士 1,721mの山頂までは標高差1,500mである。

利尻北麓野営場には、ケビンや炊事場、トイレが完備され、途中私たちのグループと抜きつ抜かれつしながら登ったグループは石川県から来たといい、このケビンを利用したことだった。

また、携帯トイレの回収ボックスもトイレ近くに備えていた。携帯トイレを宿や自宅まで持ち帰ることはばかられるし、携帯トイレの普及を進めていくためには協力しやすい環境整備も必要である。

登山口から日本名水百選に選ばれた甘露泉水は3合目。その後4合目、5合目と続き、8合目の長官山まで樹林帯の単調な登りが続く。8合目の長官山からは周りの景色が一変し、お花畠が出現し、雲間から眼前に山頂が見え隠れしている。晴れた日には、ここから稚内西海岸も眺望できるという。

しばらくして利尻

山避難小屋につく。

第一見晴台に続き。

2カ所目の携帯トイ

レ用ブースが設置さ

れている。



さらに9合目を進むと、ガレ場の歩きにくい地形となり、沓形コースと合流する。ここからは、高山植物の連続で、各自がカメラ撮影モードに入り、一行のペースはさらにゆっくりとなる。利尻山固有の種、道内の山と共通のもの、利尻・礼文共通のものなど、登山道沿いには花々が咲き競っている。

リシリヒナゲシ、ボタンキンバイ、ミヤマアズマギク、リシリオウギ、チシマキキョウ、エゾツツジ、クワガタ、



リシリゲンゲ、イワベンケイ、イブキトラノオ、ハクサンチドリ、ミソガワソウ、イワヒゲ、キバナノコマノツメ、イワギキョウ等々

9時20分山

頂着 登り5時間35分。花や周りの景色に興じながら登ったにしてはいいタイミングとリーダーからお褒めの言葉をいただく。



北峰（1,919m）の山頂神社に手を合わせ、皆で記念写真におさまり、9時55分山頂を後に来た道を戻る。

13時45分 利尻北麓野営場着。下り3時間50分。

利尻山を登り終えて、この日も生ビールで乾杯。明日は帰るだけと思うと、緊張感が解きほぐされ、酔いも手伝って、開放感と達成感が体中にしみわたっていくのがわかる。いい気分だ。

利尻・礼文花紀行は、無事終えた。この花紀行に味をしめ、羅臼岳、斜里岳を来年の計画に入れた。Iさん！またよろしくお願ひします。

記 杉山 啓子

画 石川 剛

「先生……コレってもう『スゴイ』とか言えないですよね……！」

「こんなのは、テレビでしか見たことのない景色だ！」

『僕らは確かにここまで歩いてきたんだ』……

（笑）



一日十一時間の山登り、お地蔵様の奉納、山上の梅雨明け、友情、そしてファンクラブをはじめたくさん地域支援者の皆さんと仏像ガールさん……涙と笑いと感動のたくさん詰まつた平成二十二年度芦安中学校全校鳳凰三山登山二日間の記録！

芦安中学校全校登山担当 中込景子

子どもたちはすごい。本当にすごい。純粋で、豊かで、力強く、可能性に満ちている……。やっぱり今回も「かなわないな」と感じました。十一時間……確かに辛かったはず



なんですよ。それでも子どもたちは、この挑戦をやつて良かったと言いました。

「たくさんの

ことを学んだ」と価値をつけました。仲間の存在に心から感謝すること……。なんて温かいのでしょうか。自分の弱さをきちんと受け止めること……。なんて真っ直ぐなのでしょう。私は、こんな芦安の子どもたちが大好きです。

下山中、すれ違つた登山者が、「子どもでも登れるんだね」と言つた時、私はこう思いました。

私はこだわった。だからもう一回登つて……。今度は涙を流さず。笑顔で。いつもの自分だったらあきらめていた全校登山。みんなのおかげで登つて帰つてこられた今、感謝の言葉しかありません。みんな、ありがとうございます！

○ 最初は全然前向きじゃなかった。大きいう、想いを込めたお地蔵様を届けよう、仲間と共に支え合おう……。そんな強い想いを持つた登山だったからこそ、ここまでのものが得られたのです。4月から今日までの百日間、いつも驚きと感動をくれ、美しい表情を見せてくれた子どもたちに心から感謝します。ありがとうございます！

○ 登つて下つて、登つて下つて……。こんなことがどんなことにつながるのか。いろいろ考えた。観音岳に着いた瞬間、一気に涙があふれた。いろんな人の応援で、それもまた涙に変わつていったような

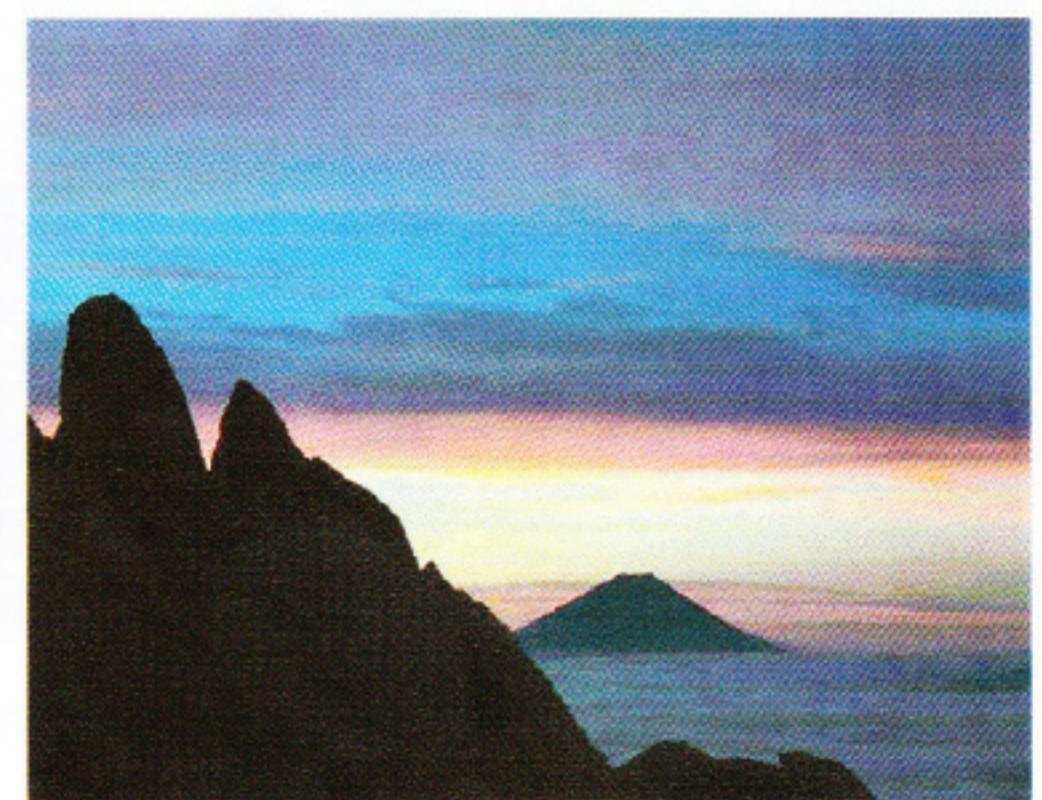
ことを学んだ」と価値をつけました。仲間の存在に心から感謝すること……。なんて温かいのでしょうか。自分の弱さをきちんと受け止めること……。なんて真っ直ぐなのでしょう。私は、こんな芦安の子どもたちが大好きです。

○ 一日に十一時間も登つて小屋まで行きました。小屋に着いた時は「やり切った！！」という達成感をめいっぱい味わえた。この登山で、あきらめかけていた自分を、一生懸命の自分に変えることができた。また、日の出の朝は、こんなことは今まで一度もなかつたので、見た時はスゲエー！！と思えた。



○ 何と言つてもやはり、薬師岳での朝日、富士山、雲海の三つがそろつたシーンです。理由は、テレビでしか見たことない風景を自分の目で見ることができたからです。もう一つは、朝日を待つみんなが、いつも以上に輝いて見えたことです。朝日がまだ出ていないくとも、それを待つみんなの心にはもう朝日が出ていたと思います！あの景色を見て、自分が世界に対してちっぽけな存在だと感じました。しかし、「その分頑張ろう！」という気持ちが芽生えた瞬間でした。

○ 登る前は無理とかいろいろ言つていたけど、実際にやつてみたら出来たし、最初からあきらめちゃいけないと分からりました。それはバドミントンでも同じだと思います。登りの時、AチームやBチームから「ファイトー！！」って声がかかるけど、あきらめることさえしなければ必ずゴールする。何かになりたいって言つたとしても、すぐになれるわけじゃない。コツコツ勉強して、いろんな経験を積んで、長い時間をかけてやつとなれる。登山で学んだ。



○ 心に刻まれた景色：「山の頂上から見た、キレイな北岳！！」 あんなにキレイな美しい北岳を見たことがなかったから、自分の心にも残ったし、お母さんにも「ぜひ」見せてあげたかった。忘れない場面：「そりやあ、もお、二日目のご来光でしょお！」ご来光そのものが「初」だから。風も気持ちよかつたし。もう満足ですよ！

○ 心に刻まれた景色：「頂上で見た朝日！！」 こんなのが初めて見たく。来年もまた頂上に登つて朝日を見たいな！！ この二日間で僕は応援の大切さを学びました。登りの時、自分たちもつらいのに、みんなが他の人のことを応援していく、その時に応援って大切なんだなと感じました。

○ やっぱり日の出：最後まであきらめずに登つたからこそ、こんないい景色を見ることができて最高！！！と思つた。いつも「無理だ」と言つていたが、最後まであきらめずに登れた！達成感を感じました。もう一度登りたい！！

○ 登山トレーニングの時は、みんなに追いつけないこともよくありました。でも本番は登りました（ヤッター！）。これは、みんながいたからだと思います。一人では絶対あきらめていきました。みんながいたから、「ファイト！」の声に励まされました。二日間で得たものは、みんなからの勇気、みんなへの優しさです。これを部活でも生かして、みんなへの勇気ややさしさを大切にしたいです。

○ 凤凰三山を全部登れたのがうれしい！



○ 始めの頃は、みんなの顔がイヤそうだったけれど、頂上に近づくにつれて、楽しそうで一年生なんかはちょっといつもと違うカッコイイ一年生に見えました。それに、チロルの子とはそんなに本當に良かったです。

○ 始めの頃は、みんなの顔がイヤそうだったけれど、この二日間ですごく話すようになつたし、すごくうれしかつたです。そして、みんなの応援、励ましはとてもうれしくて勇気をくれました。この二日間は忘れたくないし、とても深い絆でつながつたと思います。

○ 二日間で私は「協力」と「はげまし」ということを学びました。「協力」は、岩が多いところで一人で登れなかつた時に、先生に手伝つてもらつて感じました。「はげまし」は、駿也が前で登つていて、ウチが「がんばれ」って言うと、うなずいてがんばつていて、それを見て感じました。私は多分、みんながいなかつたら楽しく登つてこられなかつたと思います。

○ 登山道はいきなりの急な坂でびっくりしました。岩場はロッククライミングのようで、しんどかったです。地蔵岳は砂浜のようにキレイでした。楽しかつたです。いろんな顔のお地蔵様がいてかわ